

JAPAN EV Rally HAKUBA 2020

報告書



2020年12月20日
一般社団法人 日本EVクラブ

Japan Electric Vehicle Club

「CO2削減、地球温暖化防止」をテーマに、『第7回ジャパンEVラリー白馬2020』／『白馬村クールチョイスイベント』を、10月24日(土)に開催しました。

【開催日程】 2020年10月24日(土)～10月25日(日)

【会場】長野県白馬村(エイブル白馬五竜スキー場)

ジャパンEVラリー白馬2020

【主催】一般社団法人 日本EVクラブ

【共催】白馬EVクラブ

【後援】白馬村、白馬村観光局、環境省

公式特設サイト:<http://evrally.jevc.gr.jp>

【概要】

●基本テーマ

ジャパンEVラリーは、全国からEV(PHEV)等で集まり、EVの誕生を祝い、その普及と発展を願う祭典です。白馬クールチョイスイベント(フォーラムや試乗会)と同時開催しました。

SDGsに沿い「ストップ温暖化・気候変動」を推進しました。また、白馬村クールチョイス運動、気候非常事態宣言、ゼロカーボンシティ宣言の活動の一つと位置付けました。

●概要

1) ジャパンEVラリー白馬2020

今年で7回目となる「ジャパンEVラリー白馬」は、白馬を舞台にした集合離散型のラリーです。さまざまな媒体を通してEV・PHEVの魅力を訴求し、普及を促進したいと考え開催しました。テーマは「みんなでCO2削減」です。

各地からEV・PHEVにお集まりいただきました。

集合・ゴールは、白馬村の五竜スキー場で行いました。夜は白馬村の人たちにも自由に集まつていただき、キャンドルを灯してEV・PHEVの普及とCO2削減、そして新型コロナウイルス禍の終息を祈念しました。テーマは(世界と)“つながる”です。

また、翌日はEVラリー参加車両、試乗会車両すべてでパレード(EV気候マーチ)を行いました。

2) 白馬クールチョイスイベント

環境省クールチョイス運動の一環として、気候変動を考えるフォーラム、EV／PHEV試乗会を開催しました。EVの電気を利用する給電コーナーを設け、環境省のアニメ「ガラスの地球を救え！」を随時上映。

実施にあたり新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しました。

総括

これまでのラリーと今回のラリー

EVラリー白馬は、今回で7回目である。昨年の第6回EVラリー白馬では参加EVの航続距離が伸び、輸入EVは500km近くにもなり、国産EVのリーフも航続距離が458kmとなり、満充電であれば途中充電をせずに東京あるいは名古屋から白馬村に十分来られるようになった。今回のEVラリー白馬は、こうしたEVの進歩と充電インフラの現状を踏まえてのものである。

これまでのEVラリー白馬は、出発地点から白馬村に来るまでが冒険であり、チャレンジであった。今日では航続距離が伸びたうえに途中充電のインフラも増えて、ほぼ途中充電を心配せずに白馬村に来られるようになり、参加者から高速道路等での充電待ちの話を聞くこともなくなり、EVラリー白馬は冒険ではなくなった。

ただし、これからEVの大量普及を考えると、ドライブ途中の急速充電の整備はまだ必要だと考えられる。一方、航続距離の延長は街中充電を少なくすると考えられる。これまで街中の急速充電の整備が主眼だったが、これからは道の駅や高速道路のサービスエリア(SAやPA)への設置拡大がますます求められる。

また、観光地においては宿舎の普通充電器の設置は必須である。ただし、EVラリー白馬での充電経験では1カ所のコンセントで工夫をすれば翌日の朝までに2~3台の充電が可能である。目的地充電はこれから観光地の宿舎では必須の設備となるだろう。

EVラリー白馬はEVドライブを楽しみ、それをアピールすることでEVの普及に弾みをつけるものであり、充電インフラの調査が必ずしも目的ではないが、副次効果として充電の実際について知ることができ、からのEV普及の一助となってきた。

菅総理の「2050年に実質CO2ゼロ宣言」を受けて環境対応車の普及が喫緊の課題となり、EVの普及には弾みがつきそうである。EVで遠くに出かけることも、いざれごく当たり前の生活になると思える。ますますの充電設備の充実を関係各方面にはお願いしたい。

コロナ禍での開催

と明るいEVの未来像を描いていたところに、降って湧いたのが新型コロナの世界的な感染拡大であった。私たちのEVラリー白馬も影響を免れるわけではなく、開催の可否も実行委員の間で何度も協議した。その結果、「やれるようにやろう」ということになった。これは25年もの日本EVクラブのイベントの歴史を貫く綻のようなものである。無理をせず自然な形で実施しようというものだ。

これまで9月の連休を狙った開催であったが、少しでもコロナ禍の影響を避けるべく可能な限り開催を遅らせ10月の下旬、24日(土)の開催とし、環境省のCOOL CHOICEのイベントの一つである「気候変動と自動車～白馬に雪は降るか」と名打ったフォーラムとの相乗効果を狙って同時開催とした。

COOL CHOICEフォーラム

フォーラムでは、長野県環境保全研究所の浜田崇氏による基調講演「気候変動の現状と今後の予測」を受けて、パネルディスussionを行った。下川正剛白馬村長から「気候非常事態宣言」、「ゼロカーボンシティ宣言」に関するお話しを頂き、さらに白馬高校の生徒や白馬村で環境保全活動する人たちと白馬EVクラブのメンバーを交えてディスussionを行った。基調講演も含めて地元の問題を地元の人たちが考えるという趣旨であった。

ディスussionでは、「気候変動は地球規模の現象であり、その原因是産業革命以来300年近い近代文明のエネルギー・環境問題であるが、一方で白馬村の生活と観光事業という極めて小さな地方の大きな問題である」ことを確認した。そして、解決には世界全体で取り組むとともに、地方そして個人も取り組まなければならないことをディスussionの結論とした。

ジャパンEV白馬ラリーの開催趣旨は、自動車のCO₂排出削減であり、そのツールとしてEVはきわめて有用かつ楽しい乗り物であることの情報拡散である。そこで今回は「白馬COOL CHOICE フォーラム宣言」を行った。こうした宣言がさらに多くの市民の集まりから行われると幸いである。

祈り

新型コロナウイルスの拡散が続く中でのラリーであったため、参加者が一堂に会して祝宴を上げるわけにいかなかった。そこで集まった人たちでコロナ禍と気候変動の収束を祈るキャンドルナイトを行なった。残念ながら会場の五竜スキー場は雨だったが、キャンドルは蝋燭ではなくLEDだったので、グレンデに描いた「EV」の文字は消えることはなく、ささやかな宴が終わるまで輝きを放っていた。

コロナ禍も気候変動も私たちが招いた人知を超えた災禍である。新型コロナウイルスに対するワクチンが開発され、収束が期待されているが、次のウイルスが、さらに次のウイルスも、それが収束する頃には次の次のウイルスのパンデミックも考えられる。また、気候変動に関しては、たとえ2050年までにCO₂排出を実質ゼロにできたとしても、かなりの気温上昇はありうる。いずれも科学技術だけでは解決が難しい。私たちはこれらと共に生きる知恵と技(わざ)を身につけなければならない。ペストがヨーロッパ世界を襲うとル・ネッサンスが始まりニュートンを始めとする近代科学の創始者が多数生まれ現代にいたるが、ペストの蔓延のさなか、そしてそれ以前の災害に対して私たちの祖先は「祈る」ことで災害と共に生き、部族や集落の結束を強めてきた。

近代科学が世界を覆う現在、祈りというと非科学的に聞こえるが、近代科学が起こしたと考えられるコロナ禍と気候変動に対して、その原因となった科学技術で解決するというのは論理的な方法ではあるが、そうした方法だけで解決できるのか、心の傷は癒せるのだろうかという疑問が生まれてきた。それはペストの中でそれまでの呪術に対して科学が生まれたのと(方向は正反対ではあるが)同じではないだろうか。これまでとは異なる物の見方や価値観が生まれるのがこれからであり、あるいは生まれないと解決できない地点に私たちは立たされているのではないだろうか。こうしたことからキャンドルナイトを行い、それぞれがそれぞれに祈ったのだった。

ラリーとフォーラムの翌日は「EV気候マーチ」を行った。それぞれの方法で白馬村役場に集まり、コロナ禍の収束とCO2削減に向けた結束を誓った。

ジャパンEVラリー白馬の開催に当たり、多くの人たち、行政、企業のみなさんにお力を頂いた。改めてお礼を申し上げたい。また、コロナ禍も気候変動も、市民と行政と企業が一体とならなければ解決しない。その一つの形としてこのラリーがお役に立てば幸いである。

『ジャパンEVラリー白馬2020』● 実施内容

① ジャパンEVラリー白馬ゴール(10/24)

[会場:五竜スキー場 駐車場]

・参加台数:33台(55名)

・ゴールした参加者全員を「EV普及アンバサダー」として認定

ゴールゲートで記念写真を撮影。『EV普及アンバサダー認定証』にゴール写真を入れてお渡しました。



EV普及アンバサダー認定証／表彰状



バーフェクト賞

三坪達弥、中村さつき、湊ふみ代

白馬村長賞(一番遠くから人)

益野英昭(宮城県仙台市)

白馬村観光局賞(最初にゴールした人)

三坪達弥

②白馬COOL CHOICEフォーラム 「気候変動と自動車“白馬に雪は降るか”」

気候変動問題は、スキーリゾート白馬村にとっても深刻な問題です。自動車などのモビリティは温室効果ガス排出量の約25%を占めるとされ、欧米をはじめとする世界各国では電動化が急速に進んでいます。

気候変動は白馬村にどう影響するのか等々、国連が定める「持続可能な開発目標＝SDGs」にもフォーカスして、気候変動の専門家による基調講演や地元で活躍中のキーパーソンによるパネルディスカッションを行いました。

最後に、パネルディスカッション参加メンバーによる白馬COOL CHOICEフォーラム宣言を行いました。

◆フォーラムプログラム(敬称略)

・基調講演「気候変動の現状と今後の予測」

講師:長野県環境保全研究所 浜田崇

気候変動が、白馬村や北アルプスの積雪にどんな影響をもたらすのか、現状の解説と予測について講演いただきました。

・パネルディスカッション「私たちにできること／私たちの提案」

パネラー

白馬村長／下川正剛

『気候非常事態宣言』『ゼロカーボンシティ宣言』を実現。

Hakuba SDGs Lab／草本朋子

持続可能な地域づくりのために活動する白馬村の有志グループ。

Protect Our Winters Japan／高田翔太郎

冬を守るために気候変動問題に取り組む国際的ムーブメント。

白馬EVクラブ／渡辺俊介

電気自動車を通じて地域の再生可能エネルギー普及と持続可能な社会づくりを目指す。

白馬高校／手塚慧介、宮坂雛乃、金子菜緒

2019年に『グローバル気候マーチin 白馬』を企画開催。

ファシリテーター:寄本好則(日本EVクラブ)

それぞれが気候変動問題とどう向き合い、具体的にどのような行動をしているか語っていただきました。

・白馬 COOL CHOICE フォーラム宣言

私たちは 白馬の自然を愛し楽しみ

気候変動問題を解決するため みんなで行動します。



③キャンドルナイト／表彰式

フォーラム終了後に、集まったみんなでゲレンデの斜面にLEDキャンドルを並べ、EV／プラグインハイブリッド車の普及とCO2削減、そして新型コロナウイルス禍の終息を祈りました



④表彰式

今年は新型コロナウイルス感染防止対策ため、簡素なスタイルの夕食会としました。
表彰式では、「EV普及アンバサダー認定証」の授与と特別賞を授与しました。



特別賞授与式
白馬村長賞など

⑤COOL CHOICE最新EV&プラグインハイブリッド車展示&試乗会／給電屋台コーナー

最新のEV、プラグインハイブリッドの試乗会を開催しました。EV経験豊富なモータージャーナリストなどが同乗し、車の説明や運転操作のレクチャーを行うドライブレッスンを実施。白馬の自然の中を走る試乗コースは、適度にアップダウンがあり、EVやPHEVの特性を体験いただくのに適していました。

また、EVの電気を利用する「給電屋台」のコーナーも開設。環境省のアニメ『ガラスの地球を救え！』を随時上映しました。

試乗車:アウディ e-tron、ホンダ HONDA e、日産 リーフe+／リーフe+ AUTECH、BMW i3 REX／X3 xDrive30e／330e、トヨタ RAV4 PHV、三菱 ミニキャブMiEV

インストラクター:斎藤聰、竹岡圭、まるも亜希子、諸星陽一、御堀直嗣

試乗人数:60名(稼働率60%)



⑥EV気候マーチ

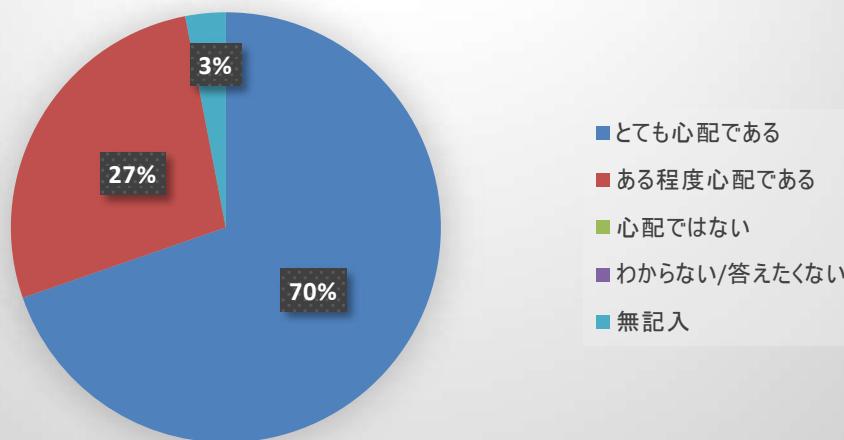
10月25日(日)EVラリー参加車両による、『EV気候マーチ』を行いました。これまでにも「EV・PHEVパレード」として行ってきたプログラムではありますが、今年は白馬村で「グローバル気候マーチ in 白馬」を行った白馬高校など地元のみなさんと繋がったこともあり、『EV気候マーチ』に名称を変更しました。

白馬五竜から、白馬村役場まで、白馬三段紅葉(山頂の雪、中腹の紅葉、麓の緑)を楽しみながらパレードを行いました。

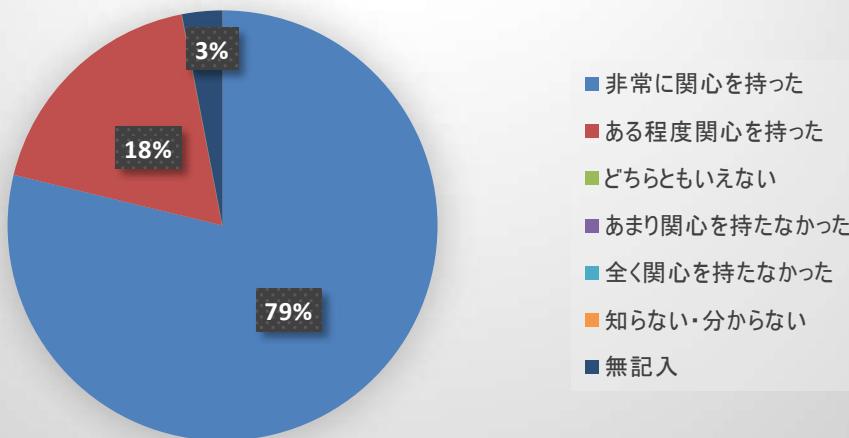
ゴールの白馬村役場では、前日のフォーラムでの宣言を掲げました。



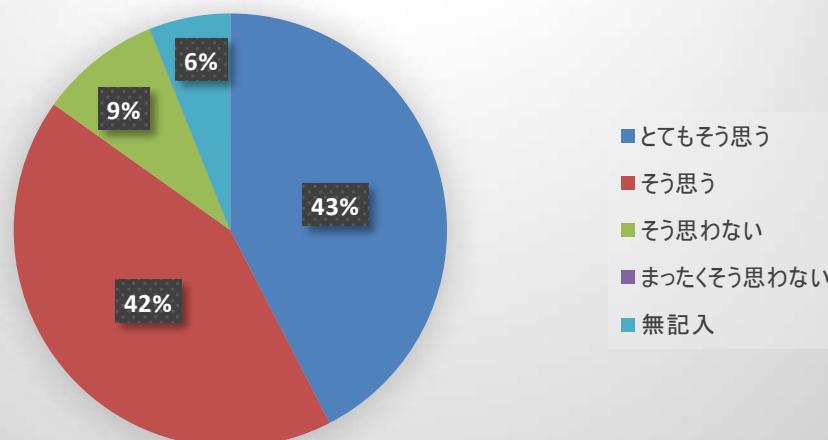
イベントに参加されて、気候の変動をどのくらい心配だと感じていますか



イベントに参加されて、地球温暖化問題・気候変動問題に、どの程度の関心を持ちましたか。



あなた自身が行動することにより、気候変動問題は改善できると思いますか。



メディアで紹介された事例です。

新聞

大糸タイムス(10月27日)

白馬・クールチョイスフォーラム「地域で考える温暖化対策 EVラリーも同時開催」
2019年9月21日

WEB

smartブログ(10月12日)

第7回『ジャパンEVラリー白馬2020』長野県白馬村で開催
<https://blog.evsmart.net/ev-news/events/2020-japan-ev-rally-hakuba/>

白馬村観光局(10月22日)

紅葉広がる白馬山麓。今週末はどんな過ごし方をしますか？

白馬村クールチョイスイベント

<https://naturenation-hakuba.com/others/1552/>

白馬村公式観光サイト(10月24日)

第7回ジャパンEVラリー白馬2020

<https://www.vill.hakuba.nagano.jp/event/695/>

竹岡圭インスタグラム(10月24日)

<https://www.instagram.com/p/CGuQnUsBq8z/>

竹岡圭 ブログ(10月24日)

女性モータージャーナリスト 竹岡圭の晴れ女ブログ

ジャパンEVラリー白馬2020

<https://ameblo.jp/takeoka-kei330/entry-12633604908.html>

竹岡圭 facebook(10月24日)

<https://m.facebook.com/kei.takeoka0330/posts/1672370109608133>

car watch (10月29日)

まるも亜希子の「寄り道日和」

「ジャパンEVラリー白馬2020」に参加してきました。

<https://car.watch.impress.co.jp/docs/column/marumo/1285615.html>

smartブログ(11月8日)

『ジャパンEVラリー白馬2020』レポート～自然を愛し楽しむため行動することを宣言

<https://blog.evsmart.net/ev-news/events/2020-japan-ev-rally-report/>

b.hatena(11月9日)

『ジャパンEVラリー白馬2020』レポート～自然を愛し楽しむため行動することを宣言！EV smartブログ

<https://b.hatena.ne.jp/entry/s/blog.evsmart.net/ev-news/events/2020-japan-ev-rally-report/>

TV

■白馬ケーブルテレビ

2020年11月放映

大糸タイムス

昭和22年8月10日
第三種郵便物承認

2



温暖化対策を考えるフォーラム

白馬村は24日、地域の生態、白馬EVマクラの代表によるハネル「クールチョイス」フォーラムを開催。会場は白馬五音スキー場で開いた。参加者約50人が「気候変動と自動車」をテーマに、地域への気候変動の影響や電気自動車(EV)の普及などを議論した。

フォーラムでは、下川正樹村長や白馬町長が「EVの普及と環境保護」について発表した。

環境省の鈴木真理子は、「EVは環境に優しい」と強調した。

白馬村は24日、地域の生態、白馬EVマクラの代表によるハネル「クールチョイス」フォーラムを開催。会場は白馬五音スキー場で開いた。参加者約50人が「気候変動と自動車」をテーマに、地域への気候変動の影響や電気自動車(EV)の普及などを議論した。

フォーラムでは、下川正樹村長や白馬町長が「EVの普及と環境保護」について発表した。

環境省の鈴木真理子は、「EVは環境に優しい」と強調した。

地域で考える温暖化対策 EVラリーも同時開催



Car Watch	Impress Watch	INTERNET	PC	デジカメ	AKIBA	AV	家電	ケータイ	クラウド
窓の杜	Car	トラベル	GAME	HOBBY	Video	こどもとIT			
自動車	タイヤ	ナビ	ドラレコ	モータースポーツ	モーターサイクル	イベント	カスタム		

脂を消化するのは胃じゃない!? 脂っこい料理が...
田辺三菱製薬

製薬会社が開発、「炭水化合物は食べてもいい! ...
黒糖抹茶青汁寒天ジュレ

まるも亜希子の「寄り道日和」

「ジャパンEVラリー白馬 2020」に参加してきました

まるも亜希子 2020年10月29日 00:00

[ツイート](#) [リスト](#) [BI 0](#) [Pocket 131](#) [いいね! 60](#) [シェア](#)


2日間に渡って開催された「ジャパンEVラリー白馬 2020」の締めくくりは、全車で連なつて白馬村役場を目指した「EV気候変動マーチ」。全員で記念撮影をすると、なかなか壮观ですね。Honda eやアウディ・e-tronなど、2020年にデビューしたEVも華を添えてくれました

日本のあちこちから、EV（電気自動車）やPHV（プラグインハイブリッド車）をドライブして長野県の白馬村に集結し、地球温暖化や気候変動について学んだり、EVの普及を願ってオーナー同士の懇親を深めたりするイベント、「第7回 ジャパンEVラリー白馬 2020」に参加してきました！

これは環境省が開催している「COOL CHOICE」のイベントと共に、私はその1つである「COOL CHOICE 最新EV&プラグインハイブリッド車展示&試乗会」のインストラクターを務めたのです。

でも、昨年までは子供が小さかったので参加が難しく、今回ようやく5歳の娘を連れての初参加。仕事というより、EVでの楽しいロングドライブ旅行の気分です。

しかも、東京から白馬へと向かう相棒となってくれたのが、まだ登場ホヤホヤのプレミアムEV、アウディ「e-tron」！ 後席のチャイルドシートに座った娘も、思わず「うわ～、いいクルマ」なんて言ってテンション上がってました。

東京を出発した時、e-tronの航続可能距離は278kmと表示されていて、白馬の宿泊先までの距離は272km。ナビをセットすると、「目的地まで到着できない可能性があります。経由地に充電設備のある諏訪湖SAを設定しますか？」とい

『ジャパンEVラリー白馬2020』レポート～自然を愛し楽しむため行動することを宣言 | EVsmartブログ

EVsmart Blog

EVsmart ブログ 電気自動車のための急速充電器・充電スポット検索アプリ 「EVsmart」 チームのブログ フィードバックを送信 广告表示設定

Home 電気自動車ニュース イベント 『ジャパンEVラリー白馬2020』レポート～自然を愛し楽しむため行動することを宣言

イベント

『ジャパンEVラリー白馬2020』レポート～自然を愛し楽しむため行動することを宣言

2020年11月8日 11件のコメント



2020年10月24日（土）、長野県白馬村で第7回『ジャパンEVラリー白馬2020』が開催されました。今年は『白馬 COOL CHOICE イベント』と同時間帯。白馬村で気候変動問題に取り組むキーバーソンとともに、白馬の自然を守るために行動する「宣言」を探査しました。

全国各地から30台以上のEV & PHEVが参加

今年で7回目となった『ジャパンEVラリー白馬2020』（主催：一般社団法人 日本EVクラブ）が、長野県白馬村の白馬五竜スキー場で開催されました。2回のブレ開催を含めると9回目。「いざ、白馬！」を合い言葉に、全国各地から電気自動車やプラグインハイブリッド車などの電動車で白馬村に集まろうという主旨で、ずっと続いてきたイベントです。

例年は2日間の日程で開催してきましたが、今年はコロナ禍への配慮で規模を縮小。1日限定での開催となりました。開催するかどうかの調整にも時間を要し、参加募集期間が2週間足らずになってしましましたが、30台以上のEV & PHEVが集まりました。



ジャパンEVラリー白馬2020

2020-10-24 16:53:47

テーマ：ブログ



ジャパンEVラリー白馬2020に参加してきましたー！
私は最新EV &PHEV試乗会を担当させていただきましたが、たくさんの方にお越しいただきましてフル稼働！皆さまの関心の高さを実感させていただきましたよー♪
環境に優しい社会を楽しんで過ごしていく！何事も楽しむことが大切！

